
第3章 認定実習指導者養成モデル研修の実施および結果

1. モデル研修のシラバス及びプログラム

(1)シラバス検討の経緯

前述してきたように、現場実習指導者による実習生指導の現状や課題に関して調査結果を分析し、研修ニーズの高さを再確認するとともに、実習指導者養成モデル研修のプログラムを検討した。

その過程では、実習指導経験を持つ者が、必要であると認識しつつも習得する機会が得られていない事柄や、実習生を受け入れるべきであると認識しながらも実際には受け入れていない場合の諸要因を明確にすることとし、シラバス作成のために、特に以下の項目に着目した。

- ①指導者は、実習生と利用者との直接関与が不可欠であると認識している、
- ②指導者は、現場実習における理論と実践の統合化を重視している、
- ③指導者は、実習において、精神保健福祉援助技術の獲得よりも価値・倫理に基づく実践を重視している、
- ④指導者は、実習生が自己覚知や自己内省することを重視している、
- ⑤指導者は、実習において、人権感覚を醸成することを重視している、
- ⑥指導者は、スーパービジョンの重要性を認識しているが、指導に自信が持てていない、
- ⑦指導者には、実習マネジメントの重要性の認識において格差が大きく、その機能が発揮されているとはいいいにくい、
- ⑧指導者は、実習受け入れに関して養成校との連携が必要だと捉えている、
- ⑨指導者の多くは、実習プログラムを作成しているが、作成上の苦慮も抱えている、
- ⑩実習生が「個別担当する」ことのあり方には、認識や方法に格差がある、
- ⑪指導者は、実習評価において「利用者理解」や、「実習生の意欲、取り組みの変容」を重視している、
- ⑫実習スーパービジョンは、日誌を用いて一定時間確保している、
- ⑬実習スーパービジョンにおける学生の理解度の重視には、指導者の認識に格差がある、
- ⑭実習スーパービジョンでは「利用者理解」「利用者との関係形成」に焦点化している。

(2)実習指導者養成研修における獲得目標

専門職養成の中で、今後さらに重視される科目となる精神保健福祉援助実習の現場指導を担う指導者には、当然のことながら精神保健福祉士としての価値・知識・技術を踏まえて精神保健福祉実践を行っていることが前提となり、価値・知識・技術を言語化して伝えられることとともに、実習生が個別の体験からこれらを考察して学ぶ過程にスーパービジョンを提供できることが求められる。

したがって、養成研修では、精神保健福祉士という専門職を養成する過程の一環として現場実習の位置づけを理解し、個人ではなく機関としての精神保健福祉現場を提供して、実習生が専門職として学ぶ過程を支援する方法を具体的に習得することが必要となる。既に指導経験を有する者にとっては、従来の自身のありようを省察し、あるいは初任指導者においては、実習指導者で

あることの自覚を促進し、研修修了後の実習生指導に反映できるよう、具体的な方法・技術の習得が求められる。

これらを踏まえて、以下に、科目別のシラバス案を記載する。

①精神保健福祉援助実習指導概論

【目的】

- ・精神保健福祉士養成教育の概要と実習教育の位置づけを理解する。
- ・精神保健福祉士養成としての現場実習の意義を理解する。
- ・精神保健福祉援助実習の構造を理解する。
- ・現場と養成機関との契約と連携の意義を理解する。
- ・現場実習の課題の背景を理解する。
- ・精神保健福祉士の視点を再確認する。

【内容】

講義形式で1コマ90分間で行う。

精神保健福祉士の存在意義を確認し、養成教育の概要（新カリキュラム案に関する検討内容）を理解し、養成課程における現場実習の位置づけを理解する。研修現場実習の現状と課題について整理する際の資料として、今回の事業内で実施した実習指導者の現況調査結果を参考とする。

この後の講義・演習で具体的な知識や方法を学ぶための総論の位置づけとなる。

②実習スーパービジョン論

【目的】

- ・ソーシャルワークのスーパービジョン概論を理解する。
- ・現場実習におけるスーパービジョンの意義と方法を理解する。
- ・実習スーパービジョンの構造、機能を理解する。
- ・実習スーパービジョンにおける指導者と教員の連携の意義と方法を理解する。
- ・精神保健福祉士の価値を再確認し、その適切な伝達方法を理解する。
- ・自己洞察力、自己批判力を醸成する。
- ・実習記録活用法を理解する。

【内容】

講義形式で2コマ合計150分間（60分間・90分間）で行う。

初めに、ソーシャルワークのスーパービジョンに関する基礎的な知識を習得して概論的な理解に導き、精神保健福祉現場におけるスーパービジョンの意義を理解する。

それを踏まえて現場実習におけるスーパービジョンの内容、方法などについて、具体的に学ぶ。あわせて、精神保健福祉士を育成するための、精神保健福祉に関連する知識・技術を再確認する。

③現場実習マネジメント論

【目的】

- ・現場実習受け入れのためのマネジメントの意義・必要性を理解する。
- ・現場実習受け入れ体制整備の意義と内容を理解する。
- ・現場実習における施設機関内外の調整方法を学ぶ。
- ・多様な現場における精神保健福祉士の業務を、業務指針と連動させて理解する。

【内容】

講義形式で、1コマ90分間で行う。

所属機関における受講者自身の位置づけを再確認し、機関としての契約に基づき実習生を現場に受け入れる体制整備の意義と方法を理解する。また、専門職養成に関わるプロセスが所属機関に与える影響、所属長や他職種からの実習評価の持つ意味について確認する。

さらに、複数の精神保健福祉士が勤務する場合、その中で構築すべき指導体制についても理解する。

④実習指導方法論

【目的】

- ・現場実習における指導プログラムについて理解する。
- ・現場実習における指導方針に基づく実習プログラムの意義を理解する。
- ・機関の特性、実習生の目的や課題とプログラム立案の関連を理解する。
- ・倫理綱領に基づき、精神保健福祉士として必要な人権擁護の視点の醸成及び役割の理解を促進できるようなプログラム策定方法を考察する。

【内容】

講義形式で、2コマ合計180分間（60分間・120分間）で行う。

初めに、現場実習におけるプログラムは、実習生の目標や課題を理解した上で、現場指導者の指導計画に基づき立案されるものであることを理解する。そのために、事前オリエンテーションのあり方や評価方法を学ぶ。指導者の所属機関に固有のプログラムを作成する前提となることを総論的に理解する。

その後、医療機関・生活支援施設など所属機関に即した実習指導、プログラムについて整理する。モデル研修では、医療機関と社会復帰施設での実習指導の実践報告を行う。

⑤演習

【目的】

- ・集団討議を活用し実習指導に対する意義、知識ならびに技術の理解を促進する。
- ・精神保健福祉士養成において現場で伝達すべき専門性について、自身の価値観を討議の中で再確認する。
- ・集団作用を通し、人と人との関係とそこにおける自己の位置づけやあり方を意識化し、自らのソーシャルワーカーとしての専門的成長を図る。

【内容】

ファシリテーターを配し、6～8人ずつの集団討議で、4コマ（60分×2コマ・120分×2コマ）で行う。

いずれも講義科目を踏まえて行うが、初日は、実習指導者養成研修参加の動機の言語化や、所属機関での現場実習の受け入れ状況について報告し合う。

2日目は、講義及び初日の討議にて出てきた疑問や自らの課題の整理を目的として、意見交換し、今後の現場実習における指導の実践に向けた士気を高めることを目指す。

(3) 認定実習指導者養成モデル研修

以上の獲得目標を踏まえ、各講義と演習科目を盛り込んだ2日間のプログラムを下記のように作成した。本研修の受講要件は現行精神保健福祉士法に則り、精神保健福祉士の資格登録後3年以上相談援助業務に従事した経験のある者とした。

なお、精神保健福祉士を養成している施設は全国に偏在していることから、実習指導経験の有無や研修ニーズ、受講意欲にも地域格差があることも予測された。さらに、本研修が必須となった場合、同一シラバスを使用して異なる講師が研修を行うこととなるため、本モデル研修においても複数の会場で異なる講師が本プログラムを担当し、モニタリングを行うこととした。

講師は一定の基準を設けることを前提として、選定根拠を以下に記す。

- ・「精神保健福祉援助実習指導概論」は、精神保健福祉士のカリキュラム検討の経緯を理解し、養成校における科目としての「精神保健福祉援助実習」と現場実習の関係性を整理して講義できる教員。
- ・「スーパービジョン概論」「実習スーパービジョン」「実習指導方法論 1」「現場実習マネジメント論」は、社団法人日本精神保健福祉士協会（以下「本協会」という）の研修認定精神保健福祉士であることを前提とし、スーパービジョンに関しては、本協会認定スーパーバイザーであること、指導方法論とマネジメント論は、精神保健福祉現場に勤務する管理職の精神保健福祉士であることとした。
- ・「実習指導方法論 2」は、本協会構成員であり、現場実習の指導経験を有する医療機関と生活支援施設等の精神保健福祉士であることとした。

認定実習指導者養成モデル研修会は、平成22年2月20日（土）、21日（日）に東京都、兵庫県で下記のプログラムにて実施した【添付資料3】。

2月20日（土）		2月21日（日）	
09:15	開講式（9:00 受付）オリエンテーション	09:00	講義「現場実習マネジメント論」
09:30	講義「精神保健福祉援助実習指導概論」	10:40	演習③
11:10	演習①	12:10	昼食
12:10	昼食	13:10	講義「実習指導方法論 2」※
13:00	講義「スーパービジョン概論」	15:20	演習④※
14:10	講義「実習スーパービジョン」	17:00	閉講式（－17:10）
15:50	講義「実習指導方法論 1」		
16:50	演習②（－17:50）		※東日本会場は、精養協と合同企画

2. モデル研修実施後のモニタリング結果

(1) 受講者からの意見聴取結果

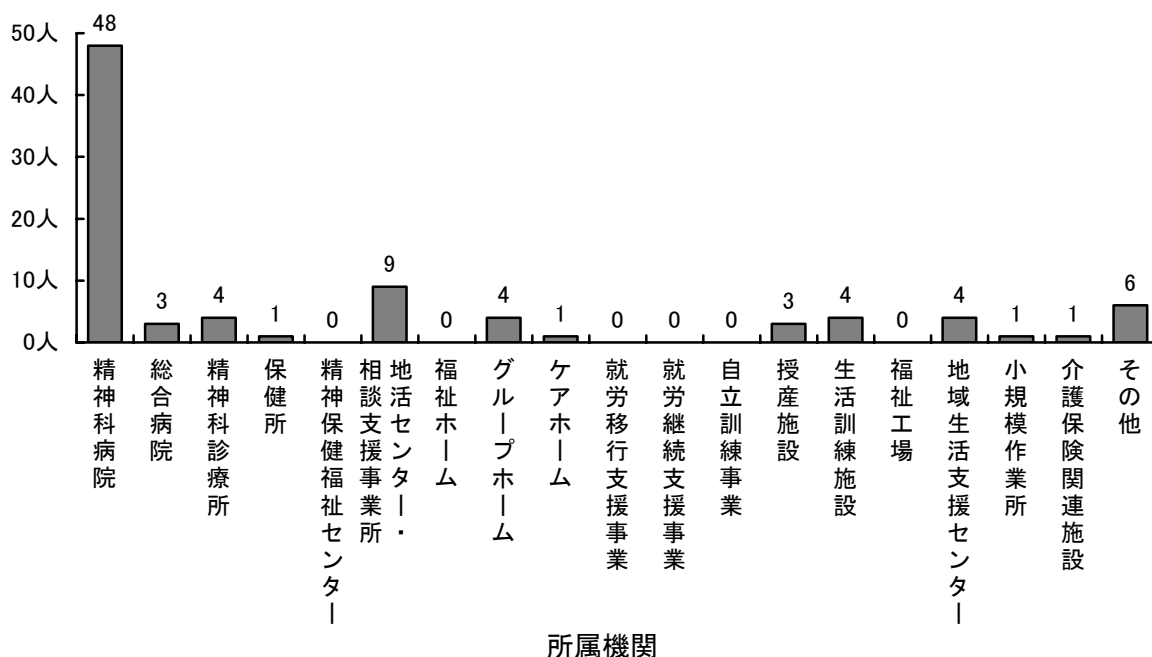
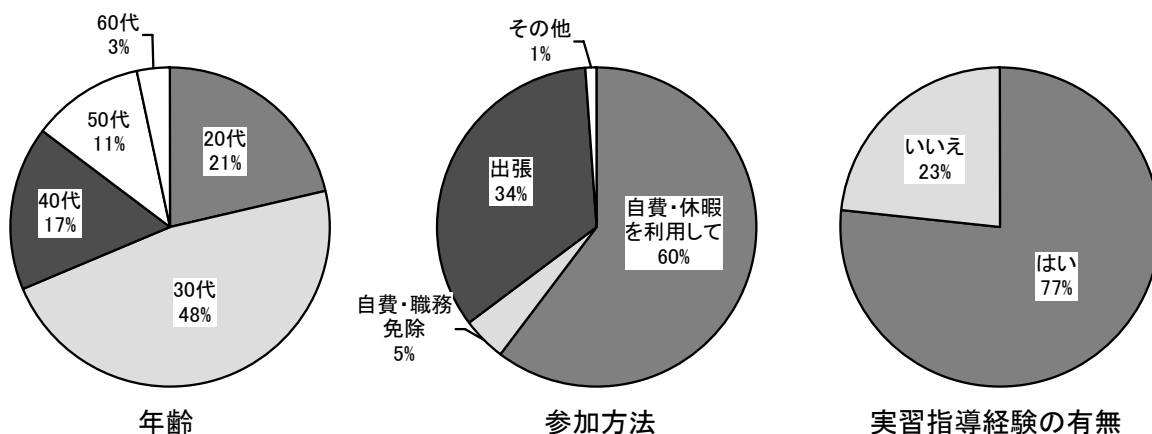
「精神保健福祉援助実習における『認定実習指導者養成』モデル研修」の受講者を対象に各プログラムの内容について、講義のわかりやすさや参考になったかどうか、研修の満足度についてアンケート【添付資料 4】を実施した。東日本会場 44 人、西日本会場 50 人の受講があり、東日本会場 41 人、西日本会場 50 人から回答を得た。

内訳として、「男性」38 名、「女性」50 名、「無記入」3 名である。

年代は、「30 代」が半数近く、「20 代」が 21%、「40 代」が 17%であった。

研修への参加方法は、「自費で休暇を利用して」いる者が 60%と最も多く、「出張」扱いでの参加は 34%となっている。実習指導経験は、69 名（77%）が有していた。

所属機関種別にみると、医療機関からの参加者が全体の半数以上を占めている。



以下、アンケート結果を詳述する。

①基本属性等

(東日本会場)

性別は、男性が23名(57.5%)、女性が17名(42.5%)であった。年齢では、「30代」の年齢層が22名(56.4%)と最も多く、次いで「40代」が7名(17.9%)となっており、続いて「20代」6名(15.4%)と回答されている。精神保健福祉分野における経験年数では、「6年～10年」が16名(39.0%)で最も多く、次いで「3年～5年」が9名で(22.0%)となっている。対象者の所属する施設では、「精神科病院」が22名(48.9%)と最も多くなっており、次いで「地域生活支援センター・相談支援事業所」と「グループホーム」がそれぞれ4名(8.9%)となっている。

実習指導経験の有無について質問したところ、33名(80.5%)が「はい」と回答し、「いいえ」と回答したのは8名(19.5%)であった。実習指導の経験年数では、「1年未満～5年」が21名(63.6%)で最も多く、次いで「6年～10年」9名(27.3%)となっている。指導した実習生の人数では、「1人～5人」が14名(43.8%)と最も多くなっており、次いで「11人～15人」が6名(18.8%)と多かった。

(西日本会場)

性別では、男性が15名(30.6%)となっており、女性が34名(69.4%)であった。年齢では、「30代」の年齢層が20名(40.0%)と最も多く、次いで「20代」が13名(26.0%)、続いて「40代」が9名(18.0%)となっている。精神保健福祉分野における経験年数では、「6年～10年」が23名(46.0%)で最も多く、次いで「3年～5年」と「16年以上」がそれぞれ8名で(18.0%)となっている。

対象者の所属する施設では、「精神科病院」が26名(52.0%)と最も多くなっていて、次いで「地域生活支援センター・相談支援事業所」が5名(10.0%)、続いて「生活訓練施設」が4名(8.0%)となっている。

実習指導経験の有無については、37名(74.0%)が「はい」と回答し、「いいえ」と回答したのは、13名(26.0%)であった。実習指導の経験年数では、「1年未満～5年」が25名(67.6%)で最も多く、次いで「6年～10年」10名(27.0%)となっている。指導した実習生の人数では、「1人～5人」が14名(37.8%)と最も多くなっており、次いで「16人以上」が9名(24.3%)と多かった。

②各講義の評価と自由記載意見

■講義「精神保健福祉援助実習指導概論」

(東日本会場)

- ①良かった25名 ②まあ良かった14名 ③あまり良くなかった1名 ④良くなかった0名
※無記載1名

自由記載より、「カリキュラムの見直しなど具体的にわかりやすく学習できた。」「新カリキュラム案なども説明していただき、今後の実習指導のあり方について知ることができた。」「カリキュラムの変更とかH24年度に迫った現実が目前にあることで今後の実習生の受入等について一考しようと思う。」「シラバスの変更(改定)など関心を持っていないと知りえないことだと思われた。やはり研修が必要と思った。」など、養成教育の概要と実習教育の位置づけ、新カリキュラムに関する理解についての記述が多かった。

また、「精神保健福祉士が世に輩出されていく過程の中で実習の位置づけがよくわかった。」「きちんとした流れ、スケジュール、意図をもったかわり、言語化が必要との理解が深まった。」「前半の実際の病院での実習は達成目標やモチベーションを上げる方法など具体的に学んだ。」「今までの実習指導の経験・実践なども教えていただいたのでとても参考になった。」「どのようにカリキュラムが改正されるかも大事ですが、病院の実例がとても参考になりました。他の職種のようにグループが組める人数を受け入れることができればお互いによいことだと思います。」など、現場実習の意義や実習の実例が参考になったとの意見も多く見られた。

さらに「普段『何となく』行っていた実習指導について、これは良かったとかここは工夫が必要だなどの整理ができた。」「精神保健福祉士として実習をどの様にとらえていくべきか自身の経験でしかなかったものを振り返りができ、今後活かせる話が聞けた。」など、自身の行っている実習指導の振り返りができたとの感想であった。

改善点や要望としては、「新カリキュラムの内容をもう少し見たかったが、その内容だけでなく、実践も含まれ興味深く聞けた。概論的内容よりも少し方法論的なものを感じた。」「実践報告がほとんどで概論に乏しい。」との意見があった。

(西日本会場)

①良かった 15名 ②まあ良かった 31名 ③あまり良くなかった 4名 ④良くなかった 0名

自由記載より、「カリキュラムをしっかり知ることができてよかった。」「学校での養成カリキュラムを知ることができてよかった。」「新しい制度について関心があった。」「カリキュラム見直しでどのように変わるかを聞くことができたことがよかった。」「現場で仕事をしていると実習カリキュラムの流れがよく理解できないので整理できた。」「精神保健福祉士の養成の現状と今後の方向を学習できた。」など、実習指導の概要や新カリキュラム、実習の制度についての感想が多かった。

また、「教育現場の話で学校側のつらさ、難しい部分が聞けてよかった。」「実習生が何を勉強しているのか知れてよかった。」「最近の学生の実態なども聞くことができ、学校側もどんな思いで実習に送り出しているのかを知ることができてよかった。」「養成校の側から最近の学生の傾向や資格取得を目指す動機等を聞くことができた。」「現任で資格をとったので、学生がどのように学んでいるのかを知れてよかった。」「養成施設と大学とでは実習時間にここまで差があるのを知らなかった。」「連携の重要性を改めて感じた。」など養成校の実状、養成校との連携についての記載が多かった。

改善点や要望としては、「変更の内容などもう少しくわしく聞きたかった。」「現場と学校で実際どんなやり取りをしているか等をお聞きできたらと思った。」との意見があった。

■演習①

(東日本会場)

①良かった 21名 ②まあ良かった 19名 ③あまり良くなかった 1名 ④良くなかった 0名

自由記載より、「都道府県や場所によって実習受入についての考え方や施設側の準備、学校や学年の対応などについて大きな違いがあることがわかりました。」「長年実習を受け入れている機関とそうでない機関とがあったが、実習受入の工夫や実習生の姿勢・実習に臨む変容などをお聞きすることができ、今後の実習を受け入れる大きなヒントになると感じた。」「他の病院や立場の方

がどういった実習をされているのか又どういった事で悩まれているのかを聞くことができ自分の職場での実習に参考にさせて頂きました。」など、実習の受入れ状況について報告された。

また、「実習指導されている方、これからされる方が入った班でしたので様々な意見交換ができてよかったです。」「初顔合わせということで導入という点では自己紹介等を主にして行われ緊張感がとれ良かった。」「自己紹介とグループワークの目的がハッキリして自分の役割を認識できた。」「最初にどんな自己紹介をするか講義中に示してもらっていたのでスムーズにできた。」「限られた時間ではありましたが、各々の立場から話を聞くことができました。演習グループは2日間を通して同一メンバーということなので、継続性があると思います。」「前講義を踏まえ各自の自己紹介からスタートし時間的にはちょうどよい印象だった。講義後にすぐ話を聞いたのは自分の考えを整理する上でよかった。」「講義に引き続きいろいろな職場の実情がきけて参考になりました。」など、演習の導入や講義後に行われる演習についての感想が多かった。

さらに「互いの職場の機関は違っても実習に対して持つ悩み等は同じであると共感できた。」「地域・職場、経験年数も違う方達と同じテーマで考え、それぞれの考えや視点の違いや同じような課題を持っていることを話し合えてスカッとした。」など、グループ討議を通して、課題を確認できたとの感想も記載されていた。

要望や改善点としては、「演習テーマがもう少し明確であれば良かったです。」「全体に渡り、演習の位置づけと目的が不明確、よもやま話になりがち。」「養成機関の教育内容により実習への考え方が大きく違っているようで養成校による実習についての講義があってもよいのでは?」「内容がわからず、リーダーより突然テーマを伝えられ、はじまったので多少戸惑いがあった。」「話がまとまらず、いろいろな方向にとんで、全体も共有感が得にくかった。」との意見があった。

(西日本会場)

①良かった 28名 ②まあ良かった 19名 ③あまり良くなかった 3名 ④良くなかった 0名

自由記載より、「他機関の特性が聞けたのと仲間意識をリーダーに作って頂けた。」「リーダーの進捗が上手でそれぞれが思いのたけを発言できた。」「リーダーの方が話しやすい雰囲気を作ってくれ、一人一人の話をゆっくり聞くことができた。」「自己紹介に時間をかけられて、次の演習②がとてもスムーズだったと思う。同じような職域、立場なので共感できることが多々あった。」「自己紹介も兼ねてそれぞれの状況がわかったので時間配分もちょうど良かったと思います。」など、演習の運営やファシリテーターがグループに入ることで進捗が円滑であったとの感想が多く記載されていた。

また、「グループの皆さんがいろんな状況、動機をもち、来られていることがわかり、親近感がわきました。」「グループ構成員の所属、参加目的がわかり、自分の動機に重ね合わせ、皆同じような悩みを持っていると共感できた。」「参加者の皆さんがどういう目的で参加したのか、またそれぞれで抱えている課題など聞かせてもらえ学びの時間となった。」「様々な動機で皆さん参加されているが、どのお話もうなずけることばかりだった。この後の演習でさらに深めたり、他の方の指導の工夫を聞いたりすることが楽しみとなった。」「各々の実習の受入れ状況がわかった。」「他施設の状況が知れて有意義だった。」など受講動機や実習の受入れ状況に関する報告がなされた。

「いつもうつうつとしていて、悩んでいたことを話せて、とりあえず、すっとなりました。」「実習指導における苦労を話すことにより、共感できる部分も多く、共有することができた。」「自己紹介も含めて、現状や困っていることの話ができた。それぞれが受けた実習について話し、実習自体が今後の(就職してからの)原動力や自信につながっているという話も共有できた。」など意見

交換を通して共感できた点についての感想が記載されていた。

要望や改善点としては、「演習すべてにおいて他参加者との情報交換になりよい機会だとは思いますが、全体場で研修担当者からこの演習の意図、目的を事前に伝えるべきだと思う。突然で時間がもったいなく過ぎることがあった。」「あまり共感できなかった。1時間の時間をさいて行う必要があるのでしょうか。演習の前の部分で15分～20分で次の課題に移ってもよいのでは。」との意見があった。

■講義「スーパービジョン概論」

(東日本会場)

①良かった28名 ②まあ良かった13名 ③あまり良くなかった0名 ④良くなかった0名

自由記載より、「PSWとしての後輩を育てる視点を持つことができた。」「学生の時ピンとこなかったが、この講義を聴いて、自分が今までやってきたこと(SVを受けたこと)の意味がわかった。さらに現在の後輩へのかかわりについて大変反省させられた。」「現場実習という学びの機会をより実りあるものにするためにもスーパービジョンは大切だと思いました。」「自分自身の中にそういったスーパービジョンされたものが無かったのですが、どういうスタンスで指導または共有していけばよいのかを考えることができました。」「実習におけるものだけでなく、実践の中でもSVの場面はよくあるので改めて必要性を感じるどころが大きかったと思います。またそれを現場に持ち帰り活かせるように考えていきたいと思います。」など、精神保健福祉現場におけるスーパービジョンの意義の理解についての感想が多くみられた。

また、「実習や部下指導の中で明確にSVを意識していた訳ではなく、今後はしっかりと意図を持ってやらねばと考えさせられました。」「改めて自分で受け持った実習のことを考えてみると焦点がずれていたことやどこに着目すればよいかモヤモヤしていたものがすっきりした。自己研鑽が必要と感じた。」「スーパービジョンは実習生だけでなく、実務でも自分がSVEだったり、SVRになったりすることがあり参考になった。『SVEの気持を聴く』と言った事が実際にはなかなかできていない事を感じた。」など、自身の実践の振り返りについて、多くの記載があった。

(西日本会場)

①良かった31名 ②まあ良かった16名 ③あまり良くなかった2名 ④良くなかった0名

※無記載1名

自由記載より、「SVの必要性を改めて感じる事ができた。」「スーパービジョンの意味合いの理解を深めることができ良かったと思います。」「講義全体を通してわかりやすかった。共に成長していく事だということとその大切さがよくわかった。」「スーパービジョンを実施することが重要なことであると同時に自分自身をもっと有効に利用していく必要があると感じた。」「SVを行うことの意義等についてよく理解できた。」「スーパービジョンについて基本的な概論から実習におけるスーパービジョンまで段階的に学ぶことができ、わかりやすかった。」「SVの必要性、成長するということへの気付きがあった。」など、スーパービジョンの意義が理解できたとの記載が多くみられた。

また、「講師の話が心にひびいた。実習だけではなく日常業務を振り返ることができた。」「SVや実習指導者のスキルがとても必要だと感じた。指導者としてどの理論に基づいているのか実習生にわかる言葉で伝えているか考えさせられた。」「スーパービジョンについての基本的な事を

学ぶことと同時に自分自身を振り返ることができた。」「スーパービジョンの在り方について考察を深めることができた。自分をスーパーバイザーとしてとらえることができ、自己覚知の必要性を強く感じた。またスーパーバイザーとして不十分なことを感じた。」「現場でのSV、実習生に対してのSVできていなさに愕然としました。必要性を認識しながらも日常業務に追われる毎日ですが、施設での課題をいただきました。」「レジュメはわかりやすく大切なことがたくさん書いてありました。同一職種としてバイザーの許容フレームが狭くなるという言葉にはハッとさせられました。なぜ学生に対してヤキモキしていたのかこのことを肝に銘じようという気づきを得ることができました。」など、自身の実践の振り返りや気づきについて、多くの記載があった。

■講義「実習スーパービジョン」

(東日本会場)

①良かった32名 ②まあ良かった9名 ③あまり良くなかった0名 ④良くなかった0名

※無記載0名

自由記載より、「契約の上で成立するSVについて、日々のこれまでの取り組みのあいまいさをつきつけられた。」「『ケース研究』の意味がわかった。実習生の事例は大変わかりやすく、実習SVを考える上で参考になった。より実践的な実習を自分の所属している機関で受けてもらい、きちんとSVしたいと改めて思った。」「実習生との面接について自分のやり方を見直す機会になり、大変勉強になりました。」「OJT、同職種へのSV、実習生への指導助言の違いがよくわかりました。」「SV概論を踏まえ、実習(実習生)におけるSVのあり方を再認識することで、自身が再び実習指導の立場に立つ際に必要な知識と認識をもつことができたと思います。前講と共に実習指導においての重要なものと感じます。」「スーパービジョンの展開がわかりやすくまとめられており理解が深まりました。」など、スーパービジョンの内容や方法の理解についての記載が多かった。

また、「実践の中で日々の課題や考え、悩みなどには返し、時間をかけてきたが、意図したSVはできていなかった。ただ考え方や方向性は間違っていなかったのではないかと考える。自分自身もSVについてまだ敷居が高いのでイメージのみではなく体験する機会も必要と考える。」「職場に戻って自分がどうスーパービジョンをしていくかという事を考えながら聞くことができ、自分の中の実習に対するスタンスを見つめなおすこともできました。自分のもっているものを適切な場面で伝えていけるようにしていきたいと感じました。」「自分の職場内でのSVについて、振り返りをすることができました。実習におけるSVの重要性に気づかされました。」「前の講義を受けて理解できたし、自分自身の実習時のSVのあり方について振り返れた。」など、実践の振り返りや気づきについての記載も多くみられた。

「認識できたが、内容が多くて理解しきれない部分がたくさんあったような気がして疲れた。」との意見もあった。

(西日本会場)

①良かった39名 ②まあ良かった9名 ③あまり良くなかった2名 ④良くなかった0名

自由記載より、「非常に丁寧、綿密に実習スーパービジョンを学べた。特に実習において実習生自身の学びと成長を支えることが目標になるというのは、意識して今後も実践の中で深めていきたいと思う。実習生の学びと成長を支えられたら良き専門職を育てられるだろうし、専門職とし

てのアイデンティティを確保でき、一般の人々にも専門職の姿勢が明確になるのではないかと考えた。」「実習プログラムとスーパービジョンの関係、スーパービジョンの機能を知り、今後実習生を受けたときに原点としていきたいと思った。」「パラレルプロセスは理解していましたが実習SVというのはSWクライアント関係とはまた少し異なる枠をもっているということを学ぶことができました。」「実習におけるSVの具体的な場面でのかかわり方の姿勢を考えることができた。」「スーパービジョンについて難しく考えていたが、まずは『自分がどう感じたかを深めていく』ことを手伝えればよいのだと考えた。」スーパービジョンの内容や方法の理解についての記載が多かった。

また、「今までしていた振り返りがSVだとわかり、もっと考えてしなければいけないと思った。」「実習生にレベルの高いところを求めていた自分に気づくことができた。これからの実習生とのかかわりにゆとりが持てるように思う。」「新人教育と実習に求めるレベルが同じだったと反省。『実習は通過点』、わかっているようでわかっていないことがわかりました。」「『なぜ?』『どうして?』という問いかけが学生にとっては詰問されているように感じるとの話にハッとした。学生の言葉、思いを引き出そうと質問責めにしていることに気づき反省した。」「実習自体が、自分自身のSWにもものすごくかかわっていることに改めて気づきました。」など、自身の実践の振り返りや気づきについての記載が多かった。

さらに、「SVをいかに実習につかっていくか意識的に行っていく必要を感じた。」「指導側、学校側の双方で協力し、作り上げていくことも大切だと感じた。」「概論を受けて実際のスーパービジョンについて講師の経験談を交えながら話を聞くことができてよかった。自分はできるだろうかという不安もあるが、実践していきたいと思えるようになった。」など、今後の実践の展望についての記載もみられた。

要望としては、「講師の実践を聴きたい。失敗、成功例共に。」との意見があった。

■講義「実習指導方法論1」

(東日本会場)

①良かった26名 ②まあ良かった13名 ③あまり良くなかった2名 ④良くなかった0名

自由記載より、「事前オリエンテーションや実習生と計画を練るという発想はケースワークの原則に近いように感じましたのであえて『実習指導』と固くならなくてもよいと思えましたので少し楽になりました。」「事前オリエンテーションの目的や方法が非常に明確であり、取り入れたいと思う。その事で学生の目的意識もハッキリしそうだ。」「指導プログラムは大変参考になった。またそのプログラムを通じて実習生に対して最低限確認すべき項目も丁寧に説明がありわかりやすかった。」など、事前オリエンテーションのあり方やプログラム作成の方法の理解についての記述が多かった。

また、「教育機関・現場・実習生、三者の水準の向上につながることを実感できました。実習の質を標準化するために体系化されたプログラムを構築されていることがとても勉強になりました。」「受入側の準備や実習をどうとらえるかで大きく実習生に影響を与えるので実習生や学校側とのすりあわせが重要だと感じた。」「きちんとした枠組みを作っておくことが様々な実習生のニーズにこたえていくのに不可欠ということがよくわかりました。枠組みを作っておけば怖くないのですね。」など実習の構造の理解について記述がみられた。

さらに、「病院実習の内容が参考になりました。私自身あまりしばられない様な実習プログラム

を考えられたらいいなと感じました。」「現場実習で実践されていることをお聞きできる機会は少ないためとても参考となりました。現場に持ちかえりができる内容も多くとても有意義な講義を伺えたと思います。」「現場からのお話がいただけ大変伝わるものがあった。小職の現場に照らし、肉付けを行っていきたいと思った。」「具体的なプロセスや組み立て方が例示されていたので、とても理解しやすかったです。参考にさせていただこうと思いました。」「実習指導のモデルを聞かせて頂きとても参考になった。しっかりと体系化されておりすぐに導入できるような感じを持ちました。」「受け入れるために必要な心構えや準備が具体的に示されていて良かったと思う。」など、実例が参考になったとの意見が多かった。

要望や改善点としては、「時間をどの様に作るかと学生から出にくい場合の対応方法についても聞けたら更によかったし、私自身も試す中で考えていきたい。」「とても興味ある内容だったのでもう少し時間をかけて聞きたかったです。」「情報量が多くついていくのに必死で理解していくところまで到達できなかった。」との意見があった。

(西日本会場)

①良かった 18名 ②まあ良かった 28名 ③あまり良くなかった 3名 ④良くなかった 0名

※無記載 1名

自由記載より、「事前オリエンテーション・訪問での準備の大切さ、実習を実習生と共に作るということに改めて気づいた。」「実習計画の時点から学生と共同作業をすることや『何を』『どこで』学びたいかを明確にすることで実習の焦点があうことも学びました。」「プログラムに実習生の希望を反映させる。実習生がたてることはその機関を数回訪れただけではわからないし、学びをせまくするのではという不安を感じました。そこを具体的に考えなければと思いました。」「実習事前レポートを書く前に面談するという話が目からうろこだった。」「現場の具体的なプロセスを学ぶことができてわかりやすかった。」「とてもわかりやすく各工程の大切さを理解することができた。」など、事前オリエンテーションのあり方や実習プロセスの理解についての記述が多かった。

また、「これまで学生自身の問題のように思っていたことが、実はこちらから事前に十分伝えていけば問題にならないことに気づき、今後改めたいと考える機会となった。」「実習を受け入れる体制や準備について考える良い機会となった。」「振り返りと比較ができた。」「いつも計画を立てずに進めていたので学生も戸惑っていたのかもしれない。」「実習について見直すことができた。」「事前学習や面接などはしていましたが、事後のことをあまり考えていなかった。実習で完結させようという考えが自分にあったと思う。」「実習生の受入についての意識が変わりました。」「実習プログラムの必要性を強く感じ早速作ろうと思う。」「実習指導の方法を具体的に説明してもらい、指導にあたっての留意点を今年度は意識して実践してみたいと思った。」「実習の目的の明確化、受入から終了までの流れの中でそれぞれの意味を今後はしっかりと考える機会となった。」など、自身の行っている実習計画の振り返りや今後の実践への展望についての記述が多くみられた。

要望や改善点としては、「もう少し話が聞きたかったです。」「もう少し時間があればよかったと思う。」「内容が多く聞きにくいところがあった。」「講師の言われていることは頭には入ってきたが自分の経験のなさからか自分のできることのイメージができなかったが、他の講義や演習を通してイメージできた。」「テキストなどを自分で読むのと講義をうけて+αをえることの違いがなければ講義の意味はないのでは。」との意見があった。

■演習②

(東日本会場)

①良かった 22名 ②まあ良かった 19名 ③あまり良くなかった 0名 ④良くなかった 0名

自由記載より、「一日の振り返りもあって感想から個人の気づきがでてきて、講義を聞くだけでは深められない部分をグループで共有できていたと感じました。」「実習プログラムについてはグループ全員各々に思いがあり、一様ではないことがわかったが実習指導方法論 1 の肉付けの部分については、実習生を思う気持ちは同じであったように思った。」「講義の振り返りも含めて自分の考えを表出することができ、また同じグループの方の意見もきくことができ、新しい発見ができました。」「講義を受けて大切なことの共有ができた。さらにどうしてそれが大切なのかを現場で実践して実習生に伝えている P S W がいて大変参考になった。」「自分の事を話すことで自分の中での思いや考えが整理された気がする。また他の方の話を聞いて、それが肉付けできた気がする。」「演習の続きとして現状の問題点などを深め考察することができました。」「本日の講義でみなさんが様々な感じ方をされていて、今後実習を考える上で大いに参考になった。」など、講義を受けて再考し、理解を深める機会になったとの感想が多かった。

「S V よりもその先にいるケースへの対応になっていた。学生が入ることで刺激になるがスタッフが疲れない様工夫も必要。学校が乱立する中で学生、学校の質も問われる。こちらの希望も伝えていく必要があるのではないか。」「学校側の対応によって実習生を受け入れる側の対応も変わってくるのではないかという話が出た。演習のメンバーの人が言っていた、現場に戻って何も変わらなくても今回の研修に参加した自分自身が変わっていれば、相手も変わってくるのではという意見が印象的であった。」「他の機関のやり方を聞き、参考になった。特に教員との連携活用については改めて考え直すきっかけになった。」など教育機関との連携について意見交換がされた。

(西日本会場)

①良かった 27名 ②まあ良かった 20名 ③あまり良くなかった 2名 ④良くなかった 0名

※無記載 1名

自由記載より、「他施設や病院の実習プログラムについて等いろいろな情報が得られた。」「他の病院の実習プログラムが参考になった。」「他の施設の実習プログラムが聞けてよかった。」「実習を組み立てるヒントやアイデアがいろいろ聞けて今後役に立ちそうです。」「学生とのかかわりをメンバーと話したことにより、自分の学生とのかかわりを振り返ることができ、ヒントになるようなかかわりも聞いた。」「自分のかかわりが一方的だったり焦りすぎていたことを改めて感じた。他の方たちも同じように悩んでいることがわかったし、その中での工夫をきくこともできてよかった。」「お互いに良い実習になるための工夫が聞けて良かった。」など、各々の所属機関での実習プログラムや工夫について意見交換がされた。

また、「講義の後に話し合うことで一人一人の考え方や意見を聞くことができ、さらに講義内容を深めることができたとともに共通理解を得ることができた。」と講義の内容を演習で深めることができたとの意見もあった。

「講義の内容を十分理解できなかったのも、与えられた課題を個人的にはクリアできなかった。」「S V を受けて自分たちができているか不安になりました。」「スーパービジョンまでは未消化です。どう指導すれば実習生に伝わるのが課題です。」との感想もあった。

要望や改善点としては、「どこにでもGWでは話を一人占めする人がいるが、このグループでも

そうであった。もう少しファシリテーターに話を多くの人にふってもらいたい。」との意見があった。

■講義「現場実習マネジメント論」

(東日本会場)

①良かった 37名 ②まあ良かった 3名 ③あまり良くなかった 0名 ④良くなかった 0名

※無記載 1名

自由記載より、「組織として実習をどのようにとらえマネジメントしていくか全体としての取り組みが大切であることを改めて実感しました。具体策がなかなかもてなかったので自身の現場で活かせる手段方法を再度考えていくヒントがたくさん頂けたと思います。」「前日の実習指導に引き続き、マネジメントの必要性も大切だと感じました。」「マネジメントという視点で考えたことがなかったので新たな視点を得られたと思う。」「マネジメントの視点が今後必要になってくるといふこと、そのことを実施している講師の実践内容に触れ刺激になりました。」「実習生を受け入れることの意義を伝えることが不十分だった。課題が見つかった。」など、実習マネジメントの意義・必要性の理解についての記述が多かった。

また、「実習マネジメントフローがわかりやすく勉強になりました。」「やや過激だが共感できる点もあり、マニュアルも大変参考になり、ぜひ頂きたいと思った。」「オリエンテーション～実習後までの流れがわかりやすかったです。当たり前のことですが全体のマネジメントの組み立て方の参考にしたいと思います。」「具体的な資料がありとても整理されていたため参考にしたい。実習を指導することの意味を改めて感じた。」「受入について具体的に説明され分かりやすかった。今年の実習からでも参考にしたいものが多々ある。」「自分の職場を考え直すきっかけになりました。しっかりと体系化されているプログラムと想いを感じるものでしたのでぜひ自分の職場の参考にさせてもらいたいと思います。」「実習受入にあたって具体的なマネジメントの手法が理解できた。」など、具体例が参考になり、手法について理解できたとの感想が多かった。

さらに、「実習への協力は専門職としての責務との認識にいたりました。」「前日の方法論 1 とつながってより具体的なイメージを持つことができました。目に見える形を作っていくことが実習生、指導者だけでなく周囲まで全ての不安解消、協力を得ることにつながると感じました。」など、機関内外での連携についての記述もあった。

要望としては、「学生の実習期間をあまり重ねない事のメリット、デメリット等、更に聞きたかった（昨日の講義ではあえて別の学校を一緒にの時期にするとのお話もあったので）。」「シンポジウム（現場と学校側）も聴きたかった。」との意見があった。

(西日本会場)

①良かった 30名 ②まあ良かった 20名 ③あまり良くなかった 0名 ④良くなかった 0名

自由記載より、「自分の部署だけでなく他職種（他部署）他機関と連携するためのマネジメントの必要性を感じた。今使っている実習プログラムや方法について確認、改善する良い機会となった。」「他職種、他機関との連絡調整、利用者への怠ることのないよう気をつけなければならないことを再認識できた。」「実習全体をマネジメントするとはどういうことか学ぶことができた。実習生との関係だけでなく、組織の中での役割や調整方法が大切だということがわかった。」「今まで実習指導を業務の中に位置づけ他職員との共有を行っていなかったことに気付いた。」「なぜ実

習生を受け入れるのかワーカーだけでなく他職種にも伝えていくことが必要なのだと理解した。また理論として体系だてていくことは自分たちのやっていることの根拠として必要なことだと思った。」「単に実習生としてみるのではなく組織的コンセンサス作りにもなる事、勉強になりました。」など、機関内外の調整や体制整備の意義についての感想が多かった。

また、「実習マネジメントを軽く調整程度に考えていました。考えが改まってよかったです。」「実習を受ける機関として取り組まなければならない管理のポイントを学びました。法人や施設に提案して試みてみたいと思います。」「自分自身の思いや考えが少しずつだが整理されて、課題も明確になってきたように思っている。」「実習受入から評価まで反復循環していることが理解できる。自分たちの事業所としてきちんと実習受入システムを構築する宿題をもらった。」など、実習マネジメントの意義の理解についての記述があった。

さらに、「業務指針をしっかり読んで実習計画作成に活かそうと思った。」「実習マネジメントって何だろうと思っていましたが意識していなかったものもあり、すごく勉強になりました。あらためて業務指針を見直してみようと思いました。」など、精神保健福祉士の業務と業務指針との連動についての感想がみられた。

要望や改善点としては、「わかりやすかったが60分でもよかったです。」「1日目の研修があったのでわかりやすかったのか、講師の説明がわかりやすかったのか、非常にわかりやすかったが、2日目ではなく初日に聞きたかった。」との意見があった。

■演習③

(東日本会場)

①良かった24名 ②まあ良かった13名 ③あまり良くなかった2名 ④良くなかった0名

※無記載2名

自由記載より、「これから実習を受ける人も多い中で方法論をしっかり確認できた。他に対応の詳細(服装、カギ、昼休み、院内への周知、振り返り時間、Ptへの同意のとり方、報告の仕方)も話せて、今受けている人も対応の方法が見直せた。」「マネジメントを踏まえ普段の現場であることの意味が出ていたので、自身にも振り返る部分が多く又各現場での現状が伺えてとても有意義な話がきけたと感じます。」「他の人の意見を聞くことでより整理ができ、また新たな課題や方法論を得られた。」「各機関、病院などでどのような実習を実施しているかの情報交換、これでいいのかなど話し合えて有意義だった。」「いろいろな話の中から講義に対する疑問が生じた。1つ1つの疑問やテーマ(鍵の問題、記録の開示、個別の事例)についていろいろな意見交換を行うことができた。」「ざっくばらんにそれぞれの実情を聞いたり質問をしたりすることができました。細かい事までヒントをもらえました。」「メンバー同士が打ち解けてスムーズにディスカッションが進んだ。具体的な話が多く共感できる点多かった。」など、講義や討議の中での疑問や課題について意見交換できたとの記述が多かった。

また、「講義後の設定は非常によいと思います。理解も深まるし、別の視点からの意見なども交換できるので実習の組み立てに有効だと感じました。」「受け入れることへのモチベーションが上がりました。」との感想もあった。

要望や改善点としては、「もっと時間が欲しかった。講師が巡回してほしかった。」「この回は時間配分が長く与えられたテーマと内容と時間と釣り合いが取れなかったような印象。演習1・2にもっと時間が欲しかった。」「話の内容の落とし所や話し合うテーマが不明確であった。」との意見があった。

(西日本会場)

①良かった 38名 ②まあ良かった 11名 ③あまり良くなかった 1名 ④良くなかった 0名

自由記載より、「他職種が多い職場（病院）と少ない職場（福祉現場）によって実習の工夫も必要と話せたり、フィードバック、評価などをどうすべきか、受入をどうするのがよいかなどいろんな考えがきけました。」「いろいろ現状がわかり参考になった。機関、規模によって各々の工夫が必要であるがマネジメントの視点で取り組んでいくことも必要と感じました。」「2日目に入ったこともあり、1日目より意見がたくさん言えたとし、聞けたのでよかった。打たれ強くない学生、マナーの悪い（知らない）学生の対応にも困っているとみんなが抱えている悩みを知った。」「各機関が持っている実習についての難しさ、困っていること等共有できた。」「ぽっかり空いてしまった時間、学生にどういうものを提供するか、また今まで自分が指導者として失敗した話など具体的なことをたくさん分かち合うことができました。」「実習プログラムの構成やSVで実際に悩んだ場面やそれにどう対応できるかを意見交換でき、今後の参考になった。」「自分がしている実習が他者からどう見えるのか、また他施設での取り組みを今度は自分のところで実践したいと思った。」など、講義や討議の中での疑問や課題に意見交換できたとの記述が多かった。

また、「マネジメント論を受け、事前準備の重要性と教育機関との協力の必要性を改めて考え直した。」など講義を受けて自身の考えを再考する機会になったとの感想もあった。

「他職種との比較や協会を県単位、全国単位で役割を作り指導向上に役立てる。」「他の県では実習マニュアルがあるということを知り自分の県ではまだまだ実習についての研修ができていないため、県協会に提案していただけたらと思い非常に参考になった。」「各機関でコンセンサス作りに取り組んでいくモチベーションになった。」との感想もあった。

■講義「実習指導方法論 2」

(東日本会場)

①良かった 27名 ②まあ良かった 7名 ③あまり良くなかった 4名 ④良くなかった 1名

※無記載 2名

自由記載より、「病院実習の取り組みについて理解できました。」「実習現場での具体的な方法やそれにとまなう役割、意味、価値を再認識でき、前日の講義・演習を踏まえ更に実践につながる話で意識付けになりました。」「具体的な話を聞くことでより自身の課題を具体化できた。またできている点も確認でき続ける自信にもなった。」「具体的な指導で気をつけることがわかった。」「病院の報告は実際の事例を通して学び、どう対応したのかまで詳しく教えて下さってわかりやすかった。」「実践事例の中から実習メリットやデメリット、困ったことなどが具体的に示され理解しやすかったです。」「実践的な話で参考になりました。」「これまでになかった細かい内容のことまで聞けて参考になった。」「実際に学生を指導した立場から気付いたことを一緒に悩みながら考えていく姿に胸を打たれる思いで聞いた。」など、実習指導の具体的な方法等の理解についての記載が多かった。

また、「一生懸命実習生を受け入れようとする姿勢が見えた。実習においても主人公はクライエントであると伝えていただき改めて認識した。誰が成長していけば良いか少し見えたような気がしました。」「今までの講義を受けて具体的な流れや講師の前後の反省は自分にもあてはまりハッとした。」「実際の体験を基にした話でとてもわかりやすく今後参考になるヒントや手がかりがもらえました。」「実践されていることを聞き自分の現場へ導入できることもあったので、少しずつで

も取り入れていきたいと思いました。」「具体的な事例が多く自分の実践を振り返り補っていくヒントになりました。」など、自身の実習指導の振り返りや今後の取り組みについての記載が多くみられた。

要望や改善点としては、「施設の実習として具体的にわかるとよかった。」「もう少し地域での実習内容が聞きたいです。」「参考になったが終盤ということもあってかマンネリしている傾向の内容だった。病院実習が主体だったので福祉施設の内容も聞きたかった。」「施設での実習受入の実践を聴けると思っていたところが内容は違うものだったところが残念でしたが参考になることは多くありました。」「現場⇄養成校、それぞれの要望を伝え合う方がよいのでは、養成校側の話も聞きたい。」「精養協と合同となっており、精養協の話も聞けるのかと思ったが特になく、P S W側のモデル研修としてはメリットが少ないように感じた。」「個人的にはパワーポイント資料はあった方がリズムよく講義を聞けるので資料をまとめていただけるとありがたいです。」との意見があった。

(西日本会場)

①良かった 27名 ②まあ良かった 22名 ③あまり良くなかった 1名 ④良くなかった 0名

自由記載より、「実際行われている実習について具体的に話が聞けてよかった。」「具体的でイメージがわいた。スーパービジョンをしても入っていかない学生が増えている。時間と労力がかかる学校にも工夫が必要と思う。」「具体的なプログラム、指導者の視点、他職種への依頼方法など勉強できてよかった。」「実際の実習生の受入れ(対応)について話が聞けて良かった。参考になった。」「実際現場で行っている実習またはその際に気をつけること、実習生へのプログラムの仕方を具体的に示してもらえた。」「具体的でプログラムがわかりやすかった。」「具体的な実習指導方法を分かりやすく説明して下さってとてもわかりやすかったです。明日からのヒントになりました。」「具体的なプログラムの立て方や進め方などを詳しく聞くことができた。自分が実習担当する上でのイメージがしやすくなったのが良かった。」など、実習指導プログラムの具体的な作成方法等の理解についての記載が多かった。

また、「フィードバックのポイントやオリエンテーション資料がとても参考になった。院内での他職種へのお願い文書も見て実習生の受入れにあたって、これまで院内で他職種への依頼や説明が不十分であったと反省し参考にしたいと思った。」「オリエンテーションで使う資料や掲示の資料など参考になりました。」「実習生に明示する文章、施設に貼り出す文章、2次的に依頼する文章の存在を知り、びっくりした。とても重要なことだと思った。」「院内アナウンス文書&学生への注意文書実例が見られとても役立ちます。ぜひ自分のところでも作りたいです。ちょっと難しいかもしれませんががんばりたいです。」など、オリエンテーション等の資料の例示についての感想が多かった。

さらに、「実践を細かく紹介していただいた。実習の歴史を持っておられ参考になった。スーパービジョンの視点で取り組んでおられるところをモデルにしたい。」「スーパービジョンのポイントは最高です。ここを押さえなければよい実習にならないと思いました。」「具体的なプログラムを目にすることができスーパービジョンのポイントも提示され、今後の自分のできる範囲で作成し、やっていく見本がもらえてよかった。」「施設の話が非常に明快で分かりやすい話だった。指導担当者がこのようにポイントを整理して指導に臨めばそこから学生の特性に応じた柔軟な指導も展開しやすくなるのではないかと思った。」と実習指導の実際についての感想が多くみられた。

要望や改善点としては、「今まで受けた実習生を通して苦労した点などもっと具体例を聞けると

なお良かったと思います。」「もう少し具体的な話をまじえて理解に結びつくような講義だと良かったと思います。」「他の講義とかぶっているところがあった。医療と福祉、両方の話があるならもう少し具体的なプログラム作成についての話が欲しかった。」「方法論というほどの具体性を感じられず概論的な内容であったと思う。講義のタイトルに対する内容という点でいけば良かったとはいえない。」との意見があった。

■演習④

(東日本会場)

- ①良かった 26名 ②まあ良かった 8名 ③あまり良くなかった 1名 ④良くなかった 1名
※無記載 5名

自由記載より、「宿題(自分の課題)は残りましたが2日間のまとめにできました。」「今までの演習のまとめが丁寧にできて課題が見えてきた。」「総括的意見や全体を見渡せる意見が多く内容の整理に役だった。」「実習に対して今後準備しなければならない点の整理ができました。」「演習総括ということもあり、自己の振り返り、今後の受入のあり方を構えず考えていこうと思いました。」「まとめとして自分の思いや他の方の熱い思いを話したり聞いたりできて良かったのではないと思う。」「研修全体を振り返ることができ、今後実習も受ける上で役立てていきたい。」「研修のまとめとして具体的に自分がどう実践していくか考えることができました。」「2日間を振り返り気付いたことが多く、講義を更に深めることが今後に活かせるという実感と共に意識を持つことができたと思います。」など、課題の整理や研修全体のまとめになったとの記述が多かった。

また、「回を重ねるごとに演習にも深みが出てよいGWができた。また業務の整理、今後の見通しについて振り返ることができた。」「講義後すぐに言語化できるのはとても有意義であった。」「現場に出て先輩である以上、後輩を育てていく義務があると感じた。学校との連絡を受け身だけでなく積極的にとるよう心がけていきたいと思う。内容のあるディスカッションができ得るものが多かった。」「意見交換を活発にでき、共通の認識を持っていることがわかり、今後のためにもよかった。」と演習の方法や意見交換の感想が記述されていた。

要望や改善点としては、「合同ディスカッションにすべき。」「養成校の方々ともう少し意見交換できるとよいと感じます。」「まとめにしては時間が短かった。」「今後は、事例検討やロールプレイを使いより実習指導者としてのリアリティな部分に触れて欲しいと思います。」「話の内容や進行に偏りがあって、何を深めたり、問題として捉えるのかよく分からなかった。」との意見があった。

(西日本会場)

- ①良かった 39名 ②まあ良かった 9名 ③あまり良くなかった 1名 ④良くなかった 0名
※無記載 1名

自由記載より、「演習を通して行っていくことで、自分の行っている実習指導への気づきや反省、客観的な振り返りを行うことができました。」「グループメンバー一人一人の課題や得たものを聞くことができ、この実習の意義を感じることができた。」「グループの意見がまとまりました。実習指導方法論で消化しきれなかったことがグループメンバーの発言で消化できました。メンバーが同じことを感じ、考えていたことを知り、実習への共通基盤ができました。」「今後の課題が見

えたこと今やっていることが全てダメではないということに気づけたと思います。」「今回の研修での学びや今後の課題を整理できる演習だった。他の方の思いもきいて共感できたし心にストンと落ちすっきりした気持ちで終えられた。」「全体を振り返り、スーパービジョンの必要性、実習を受けることの意義などを確認できた。」「それぞれの機関で課題が明確になり明日からの活力となりました。」「総まとめになった。」「皆が今後取り組みたいことを話し合ってみてプログラムの再考や丁寧にSVすることを大切にしていきたいと感じた。」など、自身の実習指導の振り返りの機会、課題の整理や研修全体のまとめになったとの記述が多かった。

また、「講義演習の繰り返しにより講義の内容をより深めることができた。」「理解が深められよかった。」「結果として実習をどうすべきか、どうしていけばよいのか等を話し合い、共有認識をもてたことは大変有意義であったと思います。」「各現場の事情や本音が聞けて自分の職場以外の理解が深まったと思う。私たちが何を目指してどうなりたいかをハッキリさせていくことの重要性も感じさせられた。」「グループの皆の気づきをきいて、自分が気づいていないことへの反省もありました。」など、意見交換を通じての自身の気づきや理解を深められたとの記述がみられた。

さらに、「自信をつける議論ができた。」「皆さんの想いや姿勢や日常が大変刺激・参考になりました。指導者研修ならではのものかと参加してよかったと思います。」「リーダーの演習の進め方が上手だったのでグループとしても自分としても研修のまとめができたと思います。」「2日間何度もできたので安心感が高まりました。じっくり振り返ることができたと思います。進行役の方がとても上手でした。」など、演習の進行や意見交換についての感想が記述されていた。

要望や改善点としては、「ちょっと時間が長かった。」との意見があった。

■研修全体の満足度

(東日本会場)

①満足 26名 ②まあ満足 12名 ③やや不満 1名 ④不満 0名 ※無記載 2名

自由記載より、「内容については色々な整理ができた点で大変良かったです。」「具体的なケースや資料があり、大変参考になった(活かせそうな内容になっていた)。」「内容はとても参考になり、今後の実習受入れについて良い材料をいただいたと思います。」「来年度初めて職場に実習生を受け入れるのにその準備責任者として大いに参考になりました。」「単純な実習プログラムの組み方にとどまらず、自分自身のPSWとしての取り組みや実践を振り返り、どのことを実習指導とどの様にからめていけるか難しいが、ぜひ取り組みたいと思える内容でした。」「演習時間が多くあり、講義内容をよく理解できた。」「演習について、参加している他の方々と意見交換ができて良かった。」との意見があった。

要望や改善点としては、「重複した内容や住み分けをもう少し検討していただくと更によかったと思います。」「SV、実習指導の演習があるといいかと思えます。また、養成校としての意見をもう少し聞けるといいかと思えます。」「もう少し実際のSVRとしてのロールプレイなどあったら、よかったと思いました。」「SVについてももう少し学べる機会があるといいかと思えます。」「私自身は大変満足した。実習生だけではなく、現場でもSVが必要だと思う。なので、研修を2日間だけで終わるのは短いのではないかと感じた。何回かに分けても良いが、1週間ぐらいの研修と実際にSVをロールプレイで行う等が必要ではないかと思った。」「演習ロールプレイなどとして、実習マネジメント、実習計画、スーパービジョンなどあるともっと良い。」「病院PSWの

立場でのお話が主だったので、地域P S Wのお話がもう少しあると良かったです。」「もう少し地域での実習内容が聞きたいです。」「今回の病院受け入れ中心のものとしては、充分だった。地域資源の受け入れについてももう少しあれば良いと思う。」とプログラムの内容に関する意見があった。また、「せっかくなので、精神保健福祉士協会の教員の方々と現状について交流を深められればと思いました。」「精神保健福祉士協会との合同企画で話し合う場（グループ）があれば深まるのではないか。」「初めて取り組む方向だけでなく、点検用の講習・研修もあるといいのではと感じた。養成校と合同のグループワークも面白いのでは・・・と感じた。」「ケンカになるとおっしゃっていた方もいましたが、シンポジウムではぜひやって頂きたいと思う。学校側の姿勢や取り組み、考え方や要望など伺いたいし、施設や病院の希望も伝えたい（もしくは座談会、GWでも）。」「養成校との情報交換ができる場があるとよいと思います。」「精養協からの話があればよかった。」「精養協とのからみ講義があってもよかったのではないか。意見交換できない事が残念だった。」「養成校からのお話も頂ければと思います。」「グループワークの中で、養成校の方とディスカッションしたかったです。」「せっかく一緒だったので学校の先生とのグループワークがあってもよかったのでは？」と精養協との合同企画に関する意見が多くみられた。

「支部開催で伝わるような開催方法があれば良いと思います。」「全体的にボリュームが多いため、2日間で全部を・・・というのは、正直厳しかったです。」「定期的に受講できる様な研修にして頂きたいです。」との意見もあった。

（西日本会場）

①満足 35名 ②まあ満足 13名 ③やや不満 0名 ④不満 1名 ※無記載 1名

自由記載より、「各地域のかたの参加であり、カリキュラムだけではなく、同じ悩みを抱えていることも確認でき、内容だけではない充実した研修でした。ありがとうございます。」「講義の間に演習が挟まっていたので、それほど眠くならず飽きずに意識を高く保てました。また、他県の方の話聞く機会を通してそれぞれの現状や課題がわかって良かったです。自分の県協会にも伝えていきたいと思います。」「講義の後演習するという方法ですが、今回初めての経験でしたが、一人で問題や疑問を抱え込むのではなく、グループで話すことで深めることができたと思う。普段の悩みや疑問についても話すことができ、とてもよかった。」「演習でしっかり振り返りができました。」「講義後のグループワークを行うことで理解度が高まりました。また同世代の悩みを共有することで自分だけじゃないと感じました。」「グループワークでは他病院、施設の意見を聞くことができ大変良かったです。」「全体の研修を通して、講義の後に演習があり、話を聞くだけではなく自分やグループのメンバーの声（言葉）で反復して考えることができたのが良かった。」「現場と養成校の両方が職場なので、とても良く分かった。教育の現場からすると実習機関がどのようなことで困っているのか良く分かった。特にGWが良かった。」「講義→演習の繰り返しは良かったです。」と演習についての意見が多かった。

「今後、実習に取り組む指針となった。」「実習指導について具体的に学ぶ機会がなかったのでとても勉強になりました。自身の機関での実習受け入れについてもっと検討しないといけない点があると感じました。たくさんのP S Wの先輩方からのアドバイスが励みになりました。」「整理や気づきの機会になりました。」「養成研修ということだったが、自分にとっては普段の仕事をグループで確認できてスーパービジョンであったと感じた。」「実習について深く考えることは無いに等しかったのですが、考えを深めるきっかけを与えて下さりありがとうございます。」「グループリーダーの方がとても話しやすく進めてくださり、とても実りある演習ができてありがたかつ

た。講義では反省すべきこと疑問が解けてホッとしたことがたくさん得られ非常に参考になった。」「公益法人の団体に属する自分という意識に弱い私ですが、偏りない業務のできる専門職になりたい。」「スケジュールがとてもハードでしたが、今後実習を受けるにあたって、気をつけることが分かって良かった。また県の協会に持ち帰って県内どこでも共有できたらと思う。」「この仕事に就いて、この専門職をやっていてやっぱり良かったと思いますし、後輩や実習生に伝えたいです。実習はこわいもの、負担なものではないですね。期待以上の研修となりました。」「必要とは思いますがなかなか出口（あるいは糸口）の見えなかった『実習の受入れ方、内容』に少しだけだが糸口が見えてきたと思う。自分自身の足元を確かなものにすることがその足掛かりになると痛感。」「今後の事業所の実習受け入れについて、いくつかお土産をもらうことができた。早速持ち帰り実習プログラムを計画したい。演習の最後、多々悩みはあるけれども私達の実践が実習生にとって一番の栄養素であることをメンバーで共有できたことが嬉しい。」「何となく『実習』としか理解していなかったが、実習の意味や目的、指導者は何をすれば良いのかなど具体的に学べて良かった。」との感想、意見の記述があった。

要望や改善点としては、「本研修を国の認定研修として認めてほしいです。」「認定実習指導者に振り替えてもらえないのが残念です。」「この研修を認定実習指導者研修として認めて欲しい。（せめて重複するものは外すなど）配慮をお願いします。」「モデル研修…本研修になった時、何らかの配慮があると助かります。お願いします。」「内容としては満足です。ただやはり実習指導者の認定がない事。必要であればまた研修を受ける必要がある。今回のモデル研修を受けた人のための研修や1日免除等の措置を考えてほしい。」と認定実習指導者についての要望があった。

「満足度は低かったです。実践の場面での活用という点でいくと、かなり不満がある。H24年のプログラムがあがってこなくても、おさえておかななくてはならない事や病院、施設、地域で共用できること、独自に組み込まなければならないことの整理が不十分であると思います。より良い研修をつくって下さい。」「理論（大切なこと、考え方など）はよく学びました。どれも有意義な講義であり、演習で一つずつ確認、消化できて参加して良かったと思います。ただ国家資格として考えるなら、その中で一番“資質”に関わる部分であるなら、実習はどれくらい厳しく？すべきなのでしょうか（きれいごとでないところで）…実習中止の基準などについても聞いてみたかったです。更に他職種ではなく、スタッフに対してどう調整していくかについても、もう少し具体的に聞いてみたかったです。」「演習はお互いに情報交換できて良かった。話が流れていってしまっていたので、もう少し話の流れがあると、よりいいなと思った。この研修が認定実習指導者研修のポイントみたいになるといいなと思います。」「ブロックごとに開催されると参加しやすいです。」「出来れば、具体的事例を多く施設ごとのものを発表して頂き、参考に出来る形としたかった。」「今回はある程度経験のある人が多いようだったので、内容が簡単すぎたのではないかと感じた。もっと短い内容で話せる内容だったと思う。参加者層に合わせた内容調整も必要だと思う。また講義内容が重複しないようにする調整もある程度行った方が良いと思う。その方が充実した研修が出来ると思う。」「各所属機関の体制や研修への認識の違いから足並みを揃えることは難しいかもしれないが実習を受けている機関はこの研修が必須になっていくことが望ましいなと感じた。」と研修の内容や今後の開催地に関する意見があった。

③グループインタビュー結果

研修終了後にプログラムの内容、構成、講師の基準や適正、配布資料の質や量、研修の運営について、東日本会場 5 人、西日本会場 8 人の協力者にグループインタビューを実施した【添付資料 5】。

(東日本会場)

プログラムの内容については、期待通りの研修だったと評価は高かった。養成校との合同研修の演習で養成校と本研修受講者が別々のグループだったが、同じグループで養成校と現場の連携について意見交換がしたかった。また、実習指導概論では、講師の実習指導体験の話が大半を占め、新カリキュラムの説明が不十分だった。カリキュラムの説明だけでなく、現場に求めることが聞きたかったとの意見があった。演習では、意見交換だけでなく、実習プログラムを模擬的に作成してみるという内容があってもよかったのではないかという意見もあった。

プログラムの構成については、講義の後に演習があり、討議を通して深めることができよかった。方法論 1、マネジメント論、方法論 2 の順番での構成について、特に違和感はなかったが、マネジメント論の後に方法論 1、2 の方が基礎から応用という流れがある。日程については、3 日間だと職場を出づらい、土日の 2 日間が参加しやすいとの意見が多かった。

講師の基準や適正については、病院での実習の具体例が多く、施設での実習の具体的内容をもっと聞きたかった。方法論 1、マネジメント論ともに医療機関所属の講師だったが、どちらかを施設所属の講師でもよかったのではないか。実習指導概論で養成校の教員の講義があったが、大学、専門学校、通信課程と養成校によって、指導のプロセスが違うので、専門学校の教員の話も聞きたかったとの意見があった。

配布資料の質や量については、概ね適正との評価であったが、講義中のパワーポイントと配布資料が違うと講義についていくのが大変になる。講義と資料が一致していると後で研修を振り返る時に役立つ。持ち帰れる資料の質と量は研修の満足度につながりやすいとの意見が聞かれた。また、配布される資料は、受講者が標準的な内容として基準にすると思うが、協会として基準にしても良い資料としてとらえてよいのか気になるとの意見があった。

研修の運営について、実施場所は、女性が多い仕事なので、通える範囲で開催されるとありがたい。開始、終了の時間については、初日の終了時間が 17 時 50 分でこれ以上遅くなると疲弊すると思う。研修の実施時期については、年度末は参加しにくい。年間スケジュールなどを示されれば、早めにスケジュールの調整ができる。研修を受講するとモチベーションが上がるので、実習生の受入れが多い夏休み前が良いのではないか。認定研修となるとスケジュールの都合がつかない場合や同一職場で複数人が受講する場合を考慮し、年に 2 回以上は開催してほしいとの意見があった。研修に関する事務手続きについては、非常にスムーズだった。参加費については、安いにこしたことはないのかもしれないが、講師の質や事務局の準備にかかる費用を考慮すべき、地方から受講者は旅費がかかるので、参加費は 1 万円前後が妥当ではないかとの意見があった。

新カリキュラムのシラバスの中の「実習期間中に 1 名以上の患者を担当する」ことについて、担当の患者さんのアセスメントをする経験は学生のためになる。全体を見るだけでは見えてこないものがあり、実習の質を考えると 1 人以上の患者を担当することには賛成する。2 週間の実習では、相談援助という具体的なところに結びつかないことが多い。実習期間中に実習に協力してくれる患者さんがいればよいが、病院の持っている病棟の機能によっては、患者さんの理解を得

るのが難しい場合もある。クリニックのデイケアの場合は、デイケアのプログラムが中心になり、個別支援というよりグループが中心になる。スタッフが業務の中で個別支援がうまくやれていないと思っている中、実習で経験させるのは大変だと思う。実習生が個別支援計画を立てることで、フレッシュな目線や学校にいる間にしか持てない視点があり、施設側ももらえるものがある。通所で3日間とかしか利用しない方もいるが、その中でかかわりを深めていけば難しいができることもたくさんある、そういう意識を持って実習に臨むことは有効だと思う。当事者からの評価が聞けるようになるとの意見が出された。

(西日本会場)

プログラムの内容は、全員がよかったとの評価であった。日頃の実習指導で課題や疑問に思っていたことが全部盛り込まれているプログラムだった。演習にグループリーダーが入ったことにより、進行もスムーズで活発な意見交換ができた。演習では、参加者がどんなプログラムを作成しているかそれぞれの現状を具体的に聞けるとよかった。講義は、医療機関、施設の実習が中心だったが、行政機関での実習についての内容が乏しかった。講義の内容で重複する部分があったが、重なる部分は重要なこととしてとらえることができたとの意見であった。

プログラムの構成について、講義の時間は適切であった。方法論2で120分休憩がなかったのは、つらかった。プログラムの順番は、概論からスタートは基本的によかった。方法論は1で全体的な目的や意義などの総論を聞き、方法論2で実習指導の実際の話聞いたので、流れとしてよかった。方法論1と2の間にマネジメント論が入ることには違和感はなかった。スーパービジョンは、概論、実習スーパービジョンとボリュームがあったが、内容が充実しており、時間が長いとは感じなかった。講義のあとに演習というスタイルは、講義で聞いたことを深めるのに役立った。スーパービジョンの講義の中で事例があり、そこを深めたいと思ったが、演習で深めることができなかった、スーパービジョンについて、深める演習があってもよいのではないかとの意見があった。日数設定については、2日間で妥当との意見であった。

講師の基準や適正について、概論で講師が所属する専門学校の話が多く、整理がつかない部分があった。レジュメを追いかけるような内容だったが、現場にお願いしたいことや連携の中で感じている葛藤を開示してもらえると身近に感じることができたと思う。講師の選定は適切だった。今後、各地で研修が開催されるならば、地元の人に講師をしてもらおうと地域の実情に照らした講義が聞けるのではないか。受講者がグループリーダーになっていたグループがあったが、受講しながらグループリーダーは負担が大きいのではないか、研修全体を把握しているわけではないと思うので、受講者兼グループリーダーでは、まとめきれないのではないかとの意見があった。

資料の質や量について、スーパービジョンの資料がすばらしく、スーパービジョンと実習指導がつながったという感覚が持てる質と量であった。概論の資料は制度的なことだけでなく、講師の言葉が入ったものがよかった。反面、概論は制度的なことも押さえないといけないので、適当だったのではないかとの意見もあった。演習については、それぞれの演習のテーマの提示が予めあった方がよかったという意見とグループリーダーが入るので特に提示の必要はないとの意見が聞かれた。

研修の運営について、アンケートを記入する時間が短かった。事前事後アンケートで、取り組みたいと思う気持ちの変化が聞かれたが、取り組みたいと思う熱意は変わらないのではないか、質問の仕方が分かりやすいとよかった。演習の会場が個室と大部屋で複数のグループがあったが、大部屋で声の大きい受講者がいたので気になったのではないか、演習は個室があるとよい。会場

が駅から少し離れた場所にありわかりにくかった。研修の実施時期については、2月は雪の心配があり、3月は参加できない人が多いのではないかと懸念している。懇親会の開催については、インタビュー協力者で参加した者は、1名だったが、懇親会の開催はありがたかったとの感想であった。

(2) 受講者の研修事前事後アンケート集計結果

本節では、このモデル研修が、受講者の実習に対する認識にどれほどの影響を与えたかをみるために、受講前、受講後に同じ設問項目による自記式アンケート（選択肢）【添付資料6】についての検定結果を示す。

① 東日本会場の事前事後アンケートに見る受講者の変容

東日本会場で受講した者に対して実施した研修事前・事後アンケートのうち、「実習指導の認識」の変容について平均得点の差を示した。t検定の結果、全ての項目で有意差が確認された。「実習記録を通じた実習指導について」($p < 0.05$)、「指導者の姿勢や仕事ぶりから学んでもらうことについて」($p < 0.05$)の2項目以外の項目におけるp値は0.001未満であり、モデル研修が受講者の実習指導に対する認識を明らかに変容させていることが示唆された(表1)。

参考までに研修前の「実習指導に対する認識」と「実際の取り組み」の差がどれほどあるかを見るために、その平均値についてt検定を実施した。その結果、全ての項目で有意差が確認され、いずれもp値は0.001未満(表2)であった。従来から実習指導に対する認識はあるものの、現実にはその認識の水準まで取り組まれていないことが示唆された。

表1 東日本会場 実習指導の認識における平均得点の差

I 精神保健福祉援助実習指導概論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点	P値
			Mean±SD	
精神保健福祉援助実習の課題について	事前	(41)	3.39±0.628	.000
	事後	(41)	3.80±0.401	
実習指導者自身の自己点検と実習指導の関係を意識することについて	事前	(41)	3.49±0.675	.000
	事後	(41)	3.88±0.331	
自らの実践と精神保健福祉士としての価値の関連を整理することについて	事前	(41)	3.41±0.631	.000
	事後	(41)	3.88±0.331	
後進の育成が利用者の利益に繋がることについて	事前	(41)	3.66±0.575	.001
	事後	(41)	3.90±0.300	
II 現場実習スーパービジョン論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点	P値
			Mean±SD	
実習において現場指導者の行うスーパービジョンについて	事前	(41)	3.56±0.502	.000
	事後	(41)	3.90±0.300	
実習スーパービジョンの特性を理解することについて	事前	(41)	3.34±0.575	.000
	事後	(41)	3.90±0.300	
実習記録を通した実習指導について	事前	(41)	3.44±0.673	.012
	事後	(41)	3.59±0.547	
指導者の姿勢や仕事ぶりから学んでもらうことについて	事前	(41)	3.46±0.596	.023
	事後	(41)	3.59±0.591	
III 現場実習指導方法論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点	P値
			Mean±SD	
所属機関での精神保健福祉士の役割を明確化することについて	事前	(41)	3.39±0.737	.000
	事後	(41)	3.76±0.435	
機関の特性を整理することについて	事前	(41)	3.32±0.687	.000
	事後	(41)	3.76±0.489	
実習プログラムを持つことについて	事前	(41)	3.51±0.675	.000
	事後	(41)	3.85±0.358	
プログラム作成にソーシャルワーク実習の視点を持つことについて	事前	(41)	3.41±0.836	.000
	事後	(41)	3.90±0.300	
実習アセスメントを行うことについて	事前	(41)	3.44±0.709	.000
	事後	(41)	3.85±0.358	
IV 現場実習マネジメント	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点	P値
			Mean±SD	
所属機関での精神保健福祉士の位置づけを把握することについて	事前	(41)	3.41±0.670	.000
	事後	(41)	3.73±0.549	
実習生を受け入れるための環境整備を行うことについて	事前	(41)	3.46±0.596	.000
	事後	(41)	3.83±0.442	
教育機関が行っている養成過程について理解を深めることについて	事前	(41)	3.17±0.704	.000
	事後	(41)	3.85±0.422	
実習事前会議に参加することについて	事前	(41)	3.02±0.851	.000
	事後	(41)	3.76±0.435	
実習報告会に参加することについて	事前	(41)	3.15±0.760	.000
	事後	(41)	3.59±0.670	

表2 東日本会場 実習指導の認識と実際の取り組みにおける平均得点の差(研修前)

I 精神保健福祉援助実習指導概論	カテゴリー (N)		実習指導者の認識総得点		P値
			Mean±SD		
精神保健福祉援助実習の課題について	認識	(41)	3.39±0.628		.000
	取り組み	(41)	2.49±0.952		
実習指導者自身の自己点検と実習指導の関係を意識することについて	認識	(41)	3.49±0.675		.000
	取り組み	(41)	2.49±0.952		
自らの実践と精神保健福祉士としての価値の関連を整理することについて	認識	(41)	3.41±0.631		.000
	取り組み	(41)	2.46±0.897		
後進の育成が利用者の利益に繋がることについて	認識	(41)	3.66±0.575		.000
	取り組み	(41)	2.66±0.855		
II 現場実習スーパービジョン論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点		P値
			Mean±SD		
実習において現場指導者の行うスーパービジョンについて	認識	(41)	3.56±0.502		.000
	取り組み	(41)	2.44±0.808		
実習スーパービジョンの特性を理解することについて	認識	(41)	3.34±0.575		.000
	取り組み	(41)	2.12±0.714		
実習記録を通した実習指導について	認識	(41)	3.44±0.673		.000
	取り組み	(41)	2.73±0.895		
指導者の姿勢や仕事ぶりから学んでもらうことについて	認識	(41)	3.46±0.596		.000
	取り組み	(41)	2.73±0.895		
III 現場実習指導方法論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点		P値
			Mean±SD		
所属機関での精神保健福祉士の役割を明確化することについて	認識	(41)	3.39±0.737		.000
	取り組み	(41)	2.68±0.850		
機関の特性を整理することについて	認識	(41)	3.32±0.687		.000
	取り組み	(41)	2.71±0.814		
実習プログラムを持つことについて	認識	(41)	3.51±0.675		.000
	取り組み	(41)	2.73±1.025		
プログラム作成にソーシャルワーク実習の視点を持つことについて	認識	(41)	3.41±0.836		.000
	取り組み	(41)	2.39±0.919		
実習アセスメントを行うことについて	認識	(41)	3.44±0.709		.000
	取り組み	(41)	2.37±0.915		
IV 現場実習マネジメント	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点		P値
			Mean±SD		
所属機関での精神保健福祉士の位置づけを把握することについて	認識	(41)	3.41±0.670		.000
	取り組み	(41)	2.51±0.898		
実習生を受け入れるための環境整備を行うことについて	認識	(41)	3.46±0.596		.000
	取り組み	(41)	2.46±0.897		
教育機関が行っている養成過程について理解を深めることについて	認識	(41)	3.17±0.704		.000
	取り組み	(41)	2.02±0.821		
実習事前会議に参加することについて	認識	(41)	3.02±0.851		.000
	取り組み	(41)	1.95±0.999		
実習報告会に参加することについて	認識	(41)	3.15±0.760		.000
	取り組み	(41)	1.83±0.972		

②西日本会場の事前事後アンケートに見る受講者の変容

西日本会場の受講前後アンケートにおける「実習指導の認識」の変容を上記と同様の方法で t 検定を行ったところ、1 項目を除く他の項目において有意差が確認でき、「精神保健福祉援助実習の課題について ($p < 0.05$)」、「後進の育成が利用者の利益に繋がることについて ($p < 0.01$)」、「実習において現場指導者の行うスーパービジョンについて ($p < 0.01$)」、「実習記録を通じた実習指導について ($p < 0.05$)」、「所属機関での精神保健福祉士の役割を明確化することについて ($p < 0.05$)」、「機関の特性を整理することについて ($p < 0.01$)」、「所属機関での精神保健福祉士の位置づけを把握することについて ($p < 0.01$)」であった。それ以外の項目はいずれも p 値は 0.001 未満であり、西日本会場においても研修が受講者の実習指導に対する認識に大きく影響を与えていた (表 3)。ただし「指導者の姿勢や仕事ぶりから学んでもらうことについて」の項目のみ、有意差が確認できなかった。

西日本会場での受講者についても、参考として研修前の「実習指導に対する認識」と「実際の取り組み」の差を見てみた。研修前の「実習指導の認識と実際の取り組み」の平均得点の差について t 検定を行ったところ、全ての項目で有意差が確認され、いずれも p 値は 0.001 未満 (表 4) であったことから、東日本会場と同様に実習指導に対する認識はあるものの、その認識の水準まで取り組まれていない可能性が示されていた。

表3 西日本会場 実習指導の認識における平均得点の差

I 精神保健福祉援助実習指導概論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点	P値
			Mean±SD	
精神保健福祉援助実習の課題について	事前	(41)	3.44±0.502	.018
	事後	(41)	3.61±0.542	
実習指導者自身の自己点検と実習指導の関係を意識することについて	事前	(41)	3.44±0.594	.000
	事後	(41)	3.85±0.358	
自らの実践と精神保健福祉士としての価値の関連を整理することについて	事前	(41)	3.44±0.550	.000
	事後	(41)	3.78±0.419	
後進の育成が利用者の利益に繋がることについて	事前	(41)	3.59±0.670	.007
	事後	(41)	3.76±0.489	
II 現場実習スーパービジョン論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点	P値
			Mean±SD	
実習において現場指導者の行うスーパービジョンについて	事前	(41)	3.56±0.502	.003
	事後	(41)	3.76±0.435	
実習スーパービジョンの特性を理解することについて	事前	(41)	3.37±0.581	.000
	事後	(41)	3.76±0.435	
実習記録を通じた実習指導について	事前	(41)	3.37±0.581	.012
	事後	(41)	3.73±0.449	
指導者の姿勢や仕事ぶりから学んでもらうことについて	事前	(41)	3.49±0.597	.183
	事後	(41)	3.56±0.634	
III 現場実習指導方法論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点	P値
			Mean±SD	
所属機関での精神保健福祉士の役割を明確化することについて	事前	(41)	3.41±0.547	.018
	事後	(41)	3.59±0.591	
機関の特性を整理することについて	事前	(41)	3.39±0.586	.007
	事後	(41)	3.56±0.550	
実習プログラムを持つことについて	事前	(41)	3.32±0.722	.000
	事後	(41)	3.63±0.488	
プログラム作成にソーシャルワーク実習の視点を持つことについて	事前	(41)	3.39±0.542	.000
	事後	(41)	3.73±0.449	
実習アセスメントを行うことについて	事前	(41)	3.20±0.641	.000
	事後	(41)	3.73±0.449	
IV 現場実習マネジメント	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点	P値
			Mean±SD	
所属機関での精神保健福祉士の位置づけを把握することについて	事前	(41)	3.39±0.586	.003
	事後	(41)	3.59±0.591	
実習生を受け入れるための環境整備を行うことについて	事前	(41)	3.20±0.601	.000
	事後	(41)	3.71±0.461	
教育機関が行っている養成過程について理解を深めることについて	事前	(41)	3.17±0.629	.000
	事後	(41)	3.54±0.552	
実習事前会議に参加することについて	事前	(41)	3.05±0.669	.000
	事後	(41)	3.46±0.552	
実習報告会に参加することについて	事前	(41)	3.05±0.742	.000
	事後	(41)	3.44±0.550	

表4 西日本会場 実習指導の認識と実際の取り組みにおける平均得点の差(研修前)

I 精神保健福祉援助実習指導概論	カテゴリー (N)		実習指導者の認識総得点		P値
			Mean±SD		
精神保健福祉援助実習の課題について	認識	(41)	3.44±0.502		.000
	取り組み	(41)	2.44±0.673		
実習指導者自身の自己点検と実習指導の関係を意識することについて	認識	(41)	3.44±0.594		.000
	取り組み	(41)	2.46±0.745		
自らの実践と精神保健福祉士としての価値の関連を整理することについて	認識	(41)	3.44±0.550		.000
	取り組み	(41)	2.49±0.779		
後進の育成が利用者の利益に繋がることについて	認識	(41)	3.59±0.670		.000
	取り組み	(41)	2.49±0.746		
II 現場実習スーパービジョン論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点		P値
			Mean±SD		
実習において現場指導者の行うスーパービジョンについて	認識	(41)	3.56±0.502		.000
	取り組み	(41)	2.56±0.867		
実習スーパービジョンの特性を理解することについて	認識	(41)	3.37±0.581		.000
	取り組み	(41)	2.27±0.742		
実習記録を通じた実習指導について	認識	(41)	3.44±0.581		.000
	取り組み	(41)	2.73±0.855		
指導者の姿勢や仕事ぶりから学んでもらうことについて	認識	(41)	3.37±0.597		.000
	取り組み	(41)	2.66±0.799		
III 現場実習指導方法論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点		P値
			Mean±SD		
所属機関での精神保健福祉士の役割を明確化することについて	認識	(41)	3.49±0.547		.000
	取り組み	(41)	2.63±0.776		
機関の特性を整理することについて	認識	(41)	3.41±0.586		.000
	取り組み	(41)	2.56±0.693		
実習プログラムを持つことについて	認識	(41)	3.39±0.722		.000
	取り組み	(41)	2.66±0.802		
プログラム作成にソーシャルワーク実習の視点を持つことについて	認識	(41)	3.32±0.542		.000
	取り組み	(41)	2.61±0.709		
実習アセスメントを行うことについて	認識	(41)	3.39±0.641		.000
	取り組み	(41)	2.44±0.743		
IV 現場実習マネジメント	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点		P値
			Mean±SD		
所属機関での精神保健福祉士の位置づけを把握することについて	認識	(41)	3.20±0.586		.000
	取り組み	(41)	2.44±0.791		
実習生を受け入れるための環境整備を行うことについて	認識	(41)	3.39±0.601		.000
	取り組み	(41)	2.22±0.791		
教育機関が行っている養成過程について理解を深めることについて	認識	(41)	3.20±0.629		.000
	取り組み	(41)	2.20±0.641		
実習事前会議に参加することについて	認識	(41)	3.05±0.669		.000
	取り組み	(41)	2.21±0.781		
実習報告会に参加することについて	認識	(41)	3.00±0.742		.000
	取り組み	(41)	2.02±0.880		

③モデル研修受講者全体の事前事後アンケートにおける平均得点の差

表5には、両会場総計の事前事後アンケートにおける「実習指導の認識」の平均得点の差を示した。t検定の結果、全ての項目で有意差が確認された。「指導者の姿勢や仕事ぶりから学んでもらうことについて (p<0.05)」の1項目以外は、いずれもp値が0.001未満であった。

表6には、研修前の「実習指導の認識と実際の取り組み」の平均得点の差を示した。t検定の結果、全ての項目で有意差が確認され、いずれもp値は0.001未満であった。

以上のことから、今回の受講者は、会場の区別なくモデル研修によって「実習指導の認識」を高めたことが示唆された。また、受講前から実習指導に対する認識は有していたが、現実の取り組みとの間に差が見られることが示された。

表5 両会場総計 実習指導の認識における平均得点の差

I 精神保健福祉援助実習指導概論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点	P値
			Mean±SD	
精神保健福祉援助実習の課題について	事前	(82)	3.41±0.565	.000
	事後	(82)	3.71±0.484	
実習指導者自身の自己点検と実習指導の関係を意識することについて	事前	(82)	3.46±0.632	.000
	事後	(82)	3.87±0.343	
自らの実践と精神保健福祉士としての価値の関連を整理することについて	事前	(82)	3.43±0.589	.000
	事後	(82)	3.83±0.379	
後進の育成が利用者の利益に繋がることについて	事前	(82)	3.62±0.621	.000
	事後	(82)	3.83±0.410	
II 現場実習スーパービジョン論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点	P値
			Mean±SD	
実習において現場指導者の行うスーパービジョンについて	事前	(82)	3.56±0.499	.000
	事後	(82)	3.83±0.376	
実習スーパービジョンの特性を理解することについて	事前	(82)	3.35±0.575	.000
	事後	(82)	3.83±0.379	
実習記録を通じた実習指導について	事前	(82)	3.40±0.626	.000
	事後	(82)	3.66±0.502	
指導者の姿勢や仕事ぶりから学んでもらうことについて	事前	(82)	3.48±0.593	.011
	事後	(82)	3.57±0.609	
III 現場実習指導方法論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点	P値
			Mean±SD	
所属機関での精神保健福祉士の役割を明確化することについて	事前	(82)	3.40±0.645	.000
	事後	(82)	3.67±0.522	
機関の特性を整理することについて	事前	(82)	3.35±0.636	.000
	事後	(82)	3.66±0.526	
実習プログラムを持つことについて	事前	(82)	3.41±0.702	.000
	事後	(82)	3.74±0.439	
プログラム作成にソーシャルワーク実習の視点を持つことについて	事前	(82)	3.40±0.700	.000
	事後	(82)	3.82±0.389	
実習アセスメントを行うことについて	事前	(82)	3.32±0.683	.000
	事後	(82)	3.79±0.408	
IV 現場実習マネジメント	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点	P値
			Mean±SD	
所属機関での精神保健福祉士の位置づけを把握することについて	事前	(82)	3.40±0.626	.000
	事後	(82)	3.66±0.571	
実習生を受け入れるための環境整備を行うことについて	事前	(82)	3.33±0.610	.000
	事後	(82)	3.77±0.453	
教育機関が行っている養成過程について理解を深めることについて	事前	(82)	3.17±0.663	.000
	事後	(82)	3.70±0.514	
実習事前会議に参加することについて	事前	(82)	3.04±0.761	.000
	事後	(82)	3.61±0.515	
実習報告会に参加することについて	事前	(82)	3.07±0.750	.000
	事後	(82)	3.51±0.614	

表6 両会場総計 実習指導の認識と実際の取り組みにおける平均得点の差(研修前)

I 精神保健福祉援助実習指導概論	カテゴリー (N)		実習指導者の認識総得点		P値
			Mean±SD		
精神保健福祉援助実習の課題について	認識	(82)	3.41±0.565		.000
	取り組み	(82)	2.46±0.819		
実習指導者自身の自己点検と実習指導の関係を意識することについて	認識	(82)	3.46±0.632		.000
	取り組み	(82)	2.48±0.849		
自らの実践と精神保健福祉士としての価値の関連を整理することについて	認識	(82)	3.43±0.589		.000
	取り組み	(82)	2.57±0.835		
後進の育成が利用者の利益に繋がることについて	認識	(82)	3.62±0.621		.000
	取り組み	(82)	2.57±0.802		
II 現場実習スーパービジョン論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点		P値
			Mean±SD		
実習において現場指導者の行うスーパービジョンについて	認識	(82)	3.56±0.499		.000
	取り組み	(82)	2.50±0.835		
実習スーパービジョンの特性を理解することについて	認識	(82)	3.35±0.575		.000
	取り組み	(82)	2.20±0.728		
実習記録を通じた実習指導について	認識	(82)	3.35±0.626		.000
	取り組み	(82)	2.70±0.844		
指導者の姿勢や仕事ぶりから学んでもらうことについて	認識	(82)	3.40±0.811		.000
	取り組み	(82)	2.68±0.593		
III 現場実習指導方法論	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点		P値
			Mean±SD		
所属機関での精神保健福祉士の役割を明確化することについて	認識	(82)	3.40±0.645		.000
	取り組み	(82)	2.62±0.752		
機関の特性を整理することについて	認識	(82)	3.40±0.917		.000
	取り組み	(82)	2.68±0.636		
実習プログラムを持つことについて	認識	(82)	3.35±0.816		.000
	取り組み	(82)	2.67±0.702		
プログラム作成にソーシャルワーク実習の視点を持つことについて	認識	(82)	3.41±0.700		.000
	取り組み	(82)	2.41±0.816		
実習アセスメントを行うことについて	認識	(82)	3.40±0.683		.000
	取り組み	(82)	2.40±0.829		
IV 現場実習マネジメント	事前事後 (N)		実習指導者の認識総得点		P値
			Mean±SD		
所属機関での精神保健福祉士の位置づけを把握することについて	認識	(82)	3.40±0.626		.000
	取り組み	(82)	2.37±0.854		
実習生を受け入れるための環境整備を行うことについて	認識	(82)	3.33±0.610		.000
	取り組み	(82)	2.34±0.849		
教育機関が行っている養成過程について理解を深めることについて	認識	(82)	3.17±0.663		.000
	取り組み	(82)	2.11±0.737		
実習事前会議に参加することについて	認識	(82)	3.04±0.761		.000
	取り組み	(82)	2.04±0.895		
実習報告会に参加することについて	認識	(82)	3.07±0.750		.000
	取り組み	(82)	1.93±0.927		

(3) 講師・演習ファシリテーター等研修スタッフからの意見聴取結果

モデル研修終了後、各講義担当者に対して、1) 担当した講義に関して重要と思われた点、2) 研修プログラムの全体構成の評価、3) 改善を要する点等についてアンケート調査を実施した【添付資料 7】。あらかじめ質問項目を提示し、郵送及び E-mail により本協会研修センターで集約した。また、研修運営を担当したスタッフ（含演習リーダー）には、1) 講義内容への評価、2) 講師要件に必要と思われる要素等についてモニタリング調査【添付資料 8】を実施した。まず講師によるモニタリング結果を以下に整理する。

①講義の構成については概ね評価が得られた。

②講義への受講者の取り組み姿勢についても評価が高かった。

③講義について重要と感じた点として、「各講師が自らの職場の実践を語ることよりも、研修の標準スタイルを作ることが重要」で、そのためには「実践をさらに理論化・一般化したテキストが必要」と考えられる点や、「PSW自身が業務を言語化する作業を十分に行えなければ、PSWの専門性について実習生に伝えることができない」といった意見が見られた。

また、「実習は実習生、実習指導者、養成施設の3者で構成される」もので、「実習目標、課題を具体化していく作業が重要」との意見も見られた。しかし、「実習施設内の各部署を回るだけでは全体像をつかむだけで終わってしまい、かかわりから実習を深化させていくことが不可能になる」、あるいは「技術的な内容を伝えるだけでは実習の本質につながらない」といった意見も見られた。

さらに、スーパービジョンを特殊な技能と位置づけ、難しく身構える必要はないが、「展開に当たっては目的・方法・時間・それらを明示した契約を意識化することが必要である」こと、「専門職の養成に促成栽培はあり得ない」こと、これを前提条件として「実習生の変化の可能性への着目が重要である」ことや、「実習生への適切なスーパービジョンの実施が、将来スーパービジョンの普及に大きな貢献を果たす」といった意見も見られた。

④課題としては、「研修プログラム全体として他の講義と一貫性があり、参加者が現場に戻った際に振り返りができる内容が必要」、「『事例検討方法論』といった具体的な科目の設定も必要ではないか」、「内容を充実させるためには3日間での開催が妥当ではないか」といった意見も見られた。

上記のような講師の意見から言えることは、実習指導者には研修内でも自身の精神保健福祉士としての実践のありようを考察し直し、言語化することも必要であると考えられる点である。その上で、実習指導者が実習生を指導するためには、施設見学や利用者との交流だけに終わらず、実習生の考察を深化させることを意識したプログラムを立案できるように研修内容を組み立てる必要があるといえるとともに、そのためにも、指導者がスーパービジョンを施す必要性が強調される研修プログラムのニーズが改めて指摘されたと言える。

そしてこれらは、現場実習だけを切り取って完結させるのではなく、養成校と連携し、現場実習は専門職養成における一つの過程であると認識すること、そこでの丁寧なスーパービジョンが、未来の後進を育成することにつながるという責任感を醸成するという研修目標に通じると考えられる。

研修を担当したスタッフからは、各講義についての講師要件、聴講して気づいた点などを挙げてもらった。

講師要件については、各講義ともに「精神保健福祉士であり、なおかつ社団法人日本精神保健福祉士協会研修認定精神保健福祉士である」こと、「日常的に養成施設と連携を図っている」こと

が重要であるとの意見が多く見受けられた。これは実習生に専門性を伝える実習指導者に対して、一定の質の担保が必要であると感じられたことが起因していると考えられるうえ、その養成にあたる講師には更なる質が求められるとの根拠に基づいている。

また一方で、熱意を感じるが、情報量を多くすることで「内容が希薄になってしまうことへの危惧」や「内容の重複」、「病院を中心としたプログラム偏重」といった点への指摘も見られた。演習の進行については、「グループ間で進行に差異があったのではないか」という点、講義を聞いて内容を深める手法が中心だったことにより、『事例』『ワーク』が盛り込まれなかった点についての改善の必要性」といった意見も見られた。また、講義と演習を交互に組み入れながら、日程の都合上、スーパービジョン論の後には演習がなかったことについて、「受講者を実践に引きつけて理解を促進する意味で必要ではないか」という意見も東西両会場に共通していた。

以上のように、講師、スタッフのモニタリング調査では、研修全体の方向性に関しては一定の評価が見られたが、各項目について精査すると、今後、①シラバス及び研修プログラム、②テキスト、③講義時間数について再考、改善の余地があることが示された結果となった。

3. 考察

モデル研修受講者の研修全体の満足度はアンケート調査、グループインタビューの結果から東日本、西日本会場ともに高く、各講義、演習における評価も概ね高いものであった。以下、企画検討小委員会でのモニタリングを概括する。

科目別にみると、「精神保健福祉援助実習指導概論」は、新カリキュラム案の内容等についての理解は促進されたが、本来の受講者ニーズ及び今後の研修で盛り込むべき内容としては、養成校での教育の実際や養成校との連携のあり方、養成校が現場に求めるものを知ることの重要性に対する意見も多く、精神保健福祉援助実習の科目全体としての構造や、養成校と現場の連携のあり方も含めた実習指導のプロセスの重要性を強調する必要があると考えられる。

「スーパービジョン概論」、「実習スーパービジョン」については、スーパービジョンの内容や方法が理解でき、自らの実践を振り返ることから、今後の取り組みの展望についての前向きな記載が多くみられ、受講者の反応はよかった。反面、スーパービジョンの講義後に演習がなかったため、スーパービジョンについて、より実践的な理解を深めることが不十分で、演習2のアンケートの中にもスーパービジョンの実践への不安についての記載があり、講義後に「スーパービジョン」について考察する演習が必要であることを示唆している。

「実習指導方法論 1」では、事前オリエンテーションのあり方やプログラム作成の方法が理解でき、実習の質を標準化していくための実習指導プログラム作成の意義やプログラム作成のプロセスの理解が深まったことがわかった。一方で、情報量が多く、時間不足の指摘が両会場で見られたことから、総論に位置づけた「方法論 1」の時間枠を広げ、内容も充実させる必要があると考えられる。

「実習指導方法論 2」については、講師の実践を交えた実習指導の具体的な方法等が今後の取り組みの参考になったとの意見が多かった。また、医療機関や施設それぞれに特徴があり、特徴を踏まえたプログラム作成方法などの具体的な内容を求める意見が多くみられることから、施設機関の各機能に応じて、実習プログラムを用意し指導計画を策定する意義が理解できる内容とする必要があるといえる。

「現場実習マネジメント論」については、実習マネジメントの意義や必要性の理解、機関内外の調整や実習受入れ体制の整備についての理解に関する記述が多かった。ここでは、所属機関における指導者自身の、精神保健福祉士としての位置づけを客観視する視点を醸成することがマネジメントのための基点になると考えられる。

演習については、講義を受けて演習を行うことにより、講義の理解が深まったと考えられる。また、ファシリテーターを配置して進行したことで、グループの意見交換が活発になったと考えられるが、受講者に各回の演習目的を、明確に示すことで、より有意義な時間となることが示唆された。

次に、プログラムの全体構成については、「実習指導方法論 1、2」の間に「現場実習マネジメント論」が入っていることについて、1と2が続いてあった方が総論から各論という流れがあったのではないかと、現場実習マネジメント論は1日目に聞いたかったとの意見もあり、構成の検討が必要である。

講師の基準や適正については、本研修の講師に問題はなかったが、医療機関の所属の講師が多く医療機関の具体例が多かった。また、大学、専門学校双方の教員の講義が聞いたかったとの意見があり、講義内容に偏りが出ないように講師の選定に配慮する必要があるとともに、より標準化した内容を講義するためには、共通テキストの作成が不可欠と考えられる。

配布資料の質や量について、資料に不満はなかったが、講義に使用するパワーポイントと配布資料が異なると講義についていくのに苦労するという声もあり、共通テキストの使い方にも今後は留意が必要かもしれない。

また、講師が実習指導で使用している独自資料を配布する場合、参考例として提示するには良いが、受講生にとっては標準化されたものが求められていることもあり、各種書式等に関しても、共通テキストとともに養成校と現場が協働して作成する必要性が示唆された。

研修の運営について、日程は、受講者からは勤務の都合上、土日を活用しての2日間だと参加しやすいという意見が多かった。一方、講師からは、研修の内容を更に充実させるためには、3日間の開催が妥当ではないかとの意見もあった。研修開催時期については、年間スケジュールの提示があれば、年度末でなければ勤務の調整は可能とする声もあるが、実習生の受入れは夏季休暇期間に多いので、年間複数回の実施とする場合、少なくとも1回は夏休み前に開催することが望まれる。